

一茶小紀行文（文化四年八月）

小林一茶。文化四年（一八〇七年）八月七日。信濃教育会編「一茶叢書・第6編」の「文化句帖（補遺）」に収録。

渋村（湯田中）で歌仙を巻いた時の小紀行文の一部。文中の二十塚は飯綱町芋川二十塚。

七日、湖光とおなじく、きのふの道をもどる。

二十塚といふ所より二人が在所見ゆ。

けぶり見へ戸隠見へて肌寒き

註 国立国会図書館デジタルコレクションの信濃教育

会編「一茶叢書・第6編」〔小林一茶〕著〔他〕（古今

書院, 1930）」(DOI 10.11501/1186706) の109頁

マ目。永続的識別子 [info:ndljp/pid/1186706](https://nii.ac.jp/info:ndljp/pid/1186706)。